



革新的サービス

06

平成25年度
補助事業

染工場の和装デザイン、縫製力を活かした よさこい踊り衣装の短納期・受注生産の開始

課題 *Issue*

変化する顧客ニーズと 生産性向上への対応

これまで伝統的な型友禅の技法に加えて、印染（法被・旗等）の新たな分野への進出を果たし、伝統技術と製版から縫製まですべて自社製造にこだわる染元としての地位を築いてきましたが、近年、染め物素材がデザイン性や風合いの問題のため、綿素材からポリエステル素材へ変わりつつあります。また、需要が拡大している「よさこい踊り衣装」はブームの影響等で、より多色でグラデーション等の複雑なデザイン物が好まれるようになってきました。その上、お祭り開催時期が集中することにより、従来の捺染での衣装の製造では作業工程が多いため、短納期への対応が難しくなっていました。

実施内容 *Measures*

新規プリンタの導入で 異業種参入を確実にする

近年、法被や踊り衣装は従来の伝統的染色技法では製作が困難になっています。そこで、短納期での複雑なデザイン物の生産を目的に、昇華転写用インクジェットプリンタとドラム式昇華転写プレス機を導入しました。まず、操作技能習得と機械トラブルへの対応等の実施検討として、事前に色のブレを防ぐためにプリンタの設定やカラーチャートの作成などで色の調整を行ったほか、プリンターヘッドの破損につながるコックリング現象や転写機でのゴースト現象の防止を図った上で試作へと進みました。試作では短納期の実現性を探るために、プリンタの高速連続運転による検証も行いました。

成果 *Results*

表現力の高い染色と 短納期の達成を確認

よさこい踊り衣装の試作を行った結果、多品種・小ロット・短納期が可能であることを確認できました。従来の工程では、デザイン・企画から縫製まで合計20日かかっていたところが14日となり、6日の短縮です。しかも、よさこい踊り衣装の高い受注単価や3%の削減となった人的コストまで含めると、価格競争力の向上が大いに期待できます。また、鮮やかな色の染め表現が可能となり顧客ニーズにも対応できることから、将来的には自社でデザインした衣装をチームへ提案を行う提案型営業体制の構築が考えられ、ひいては受注確保に向けて他社との差別化が図れるものとなりました。



当社の事業内容

呉服の友禅染工場として始まった安彦染工場は、お祭り、イベントなどの法被や暖簾、手拭い、神社関連の幟や幕など多様な製品を、染めは元より写真製版から縫製まで完全自社加工を行う会社です。今から25年程前に印染へ転向し、20年程前から顔料・反応捺染を主な製造品目としていましたが、カチロン染料でのアクリル繊維が主力製品となり、同時に裃天、暖簾などの綿商品も増えてきました。そのため、ポリエステルの本染にも本格的に力を入れることとなりました。現在、インクジェット、昇華転写の普及に伴い、商品自体がますます複雑化し、競争が激しくなっていますが、あくまでも染めにこだわり、「心と技」で大切に作製に取り組んでいます。

今後の展望 *Future outlook*

新規分野で長年培った技術を基に独自性を打ち出していく

当社が拡大を狙っている「よさこい踊り衣装」は高知から始まった参加型の新しいスタイルのお祭りで、全国200か所で開催され40万人の踊り子がいると言われています。開催地・踊り子ともに年々増加しているため、よさこい踊り衣装の市場は伸びています。高知県のよさこい衣装製造業者の計算によると、よさこい衣装の市場規模は500億円あるとのこと。当社の取引先でもよさこい衣装を製造している会社は数社ありますが、縫製が複雑なため納期のズレと、お祭りの開催時期が重なり製造が間に合わない現状です。当社が今回の新サービスを始めることは当社の縫製力を良く知っている取引先からも期待されており、今まで以上の信頼関係が築けることは間違いなく、また、受注拡大につながるものと確信しています。



代表取締役 安彦雅裕

会社概要 *Company introduction*

有限会社 安彦染工場

〒960-1111 福島県福島市五老内町9-18
TEL. 024-534-4506 FAX. 024-534-5840

- 代表者 代表取締役 - 安彦雅裕
- 設立 昭和37年6月
- 資本金 300万円
- 従業員 27名
- URL <http://www.happy-happi.jp/>

